

# 農作物技術情報 第1号 畜産

発行日 令和4年 3月 17日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆春先に牧草地へ堆肥やスラリーを施用する場合は、早めに散布しましょう。
- ◆1番草の収量を確保するために、追肥作業は早めに行いましょう。

## 牧草

### （1）堆肥等の散布

化成肥料の一部代替のため、春先に堆肥やスラリーを散布する場合は、収穫した1番草の堆肥等の混入による不良発酵を防止するため、大量散布は控えるとともにできるだけ早い時期に散布します。早めの散布は、堆肥やスラリーの分解を促しますので、遅くとも4月中旬には散布を終えるようにします。

また、堆肥は切り返し等により腐熟が進んだものを散布します。散布後、草地に堆肥の塊が見られる場合は、パスチャーハロー等をかけて堆肥を砕き散らします。



写真1 パスチャーハロー

### （2）早春に施肥を行う重要性

イネ科牧草の1番草が生育する時期は、生育期間中で最も旺盛に成長し（スプリングフラッシュ）、生産量も多い時期です。年間収量で見ると、1番草は年間の4～5割を占めます（図1）。スプリングフラッシュは、牧草の出穂という生殖成長により起きるもので、越冬したイネ科牧草の茎は出穂のための条件が整っていて、栄養分が十分にある場合にこの現象が起きます。

スプリングフラッシュ時に収量を増加させるためには、窒素肥料が重要であり、春早くから窒素を十分に吸収していれば、順調に出穂し多収となります。出穂茎は、穂を支えるために丈夫に育つため、穂のない茎よりも重さが6～7倍になると言われています。

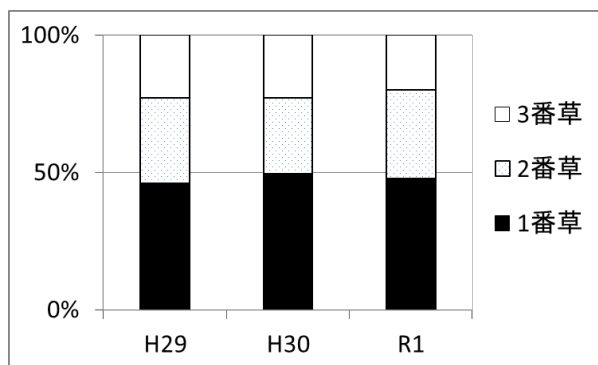


図1 年間収量に各番草が占める割合  
各普及センターの生育診断圃の平均値より算出し

### (3) 早春施肥

イネ科牧草は平均気温 5℃から生育を開始し、出穂は萌芽期からの気温と日照時間で決まります。このため、施肥時期を遅らせても出穂期を遅らせることはできません。

春の施肥遅れは、遅れた分だけ牧草の生長が妨げられることから、草地を見回り萌芽を確認し、圃場にトラクタが入れるようになったら、ただちに施肥を行って1番草の収量を確保します。早春の施肥は、速効性のある化学肥料を中心に行います。

表1 牧草地の施肥基準（維持草地）

区分	草地種類	施肥時期	10a あたり施肥量 (kg)		
			窒素	リン酸	カリウム
採草地	オーチャード グラス主体	早春	10	5	10
		刈取後（最終刈後除く）	5	2.5	5
	チモシー 主体	早春	10 (*5)	5	10
		刈取後（最終刈後除く）	5	2.5	5
放牧地		早春(牧草萌芽期)	6	3	3
		夏期(7月)	6	3	3
	スプリング フラッシュ抑制	初夏(6月中旬)	6	3	3
		夏期(8月上旬)	6	3	3

「岩手県牧草・飼料作物生産利用指針」より

\* チモシー主体草地の利用初年度の窒素の施肥量は、倒伏防止の観点から、5kg/10a 程度に抑える

次号は4月21日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

農業普及技術課農業革新支援担当は、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。